

小牧岩倉地域循環型社会形成推進地域計画に係る改善計画書

1 目的

本計画書は、循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書の「1 目標の達成状況」において、未達成となった項目について、その要因を分析するとともに、今後の目標達成に向けた方策等に係る計画を定めるものである。

2 非達成項目

指 標		目標 A	実績 B	実績 B / 目標 A
再生利用量	直接資源化量	13,314.00t (19.2%)	8,828.83t (14.6%)	66.3%
	総資源化量	24,166.71t (34.9%)	21,069.23t (34.9%)	87.2%
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	25,770.23MWh	18,953.40MWh	73.5%
減量化量	中間処理による減量化量	49,138.78t (70.9%)	40,496.68t (67.0%)	82.4%

3 目標が達成できなかった要因

(1) 再生利用量

資源ごみの収集及び集団回収において、古紙、古布及び飲料容器類（びん類・缶類、ペットボトル）の収集量が大幅に目標を下回った。これは、新聞・雑誌の発行部数の減少によるもののほか、ごみ排出抑制意識の向上により資源ごみ自体の排出量が減少したことや民間事業者による自主回収の拡大によるものと考えられる。

一方、中間処理後の再生利用量においては、高効率ごみ発電施設（ごみ熔融施設）及びリサイクルセンター（ごみ破碎施設）での再生利用量が目標を上回った。

結果として、総資源化量は目標の 24,166.71 t に対して実績が 21,069.23 t であり目標を下回ったが、排出量に対する割合については目標の 34.9% に対して実績が 34.9% であり目標を達成しているとも考えられる。

(2) 熱回収量

ごみ排出量が目標量以上に削減されたことに伴い焼却処理対象ごみ量自体が減少したこと、ごみ発熱量が計画値（目標）よりも低かったことによる。

(3) 減量化量

中間処理量自体が減少していること、中間処理のうち焼却処理において、処理後の生成物（熔融スラグ、熔融メタル、集じん灰）の発生量が計画値（目標）よりも多かったことによる。

4 目標達成に向けた方策等（目標達成年度 平成32年度）

(1) 再生利用量

引き続き、環境教育、啓発活動の充実を推進するとともに、新たな資源回収拠点の

開設等により、市民の資源排出機会を増加させる。

(2) 熱回収量

高効率ごみ発電施設（ごみ熔融施設）の年間運転計画において、ごみ1トンあたりの発電量が高い2炉運転期間の日数が多くなるよう計画する等、より効率的な発電が行えるよう施設を運営していく。

(3) 減量化量

焼却処理後の生成物（熔融スラグ、熔融メタル、集じん灰）の発生量については、処理するごみの性状によることから、ごみ質の把握に努め、予測の精度を上げるとともに、より効率的な処理を行えるよう施設を運営していく。

改善計画書に対する都道府県知事の所見

再生利用量については、直接資源化量、総資源化量ともに目標を達成することができなかった。目標を達成できなかった要因として、新聞・雑誌の発行部数の減少や民間事業者の自主回収の拡大等により、資源ごみの収集と集団回収が減少したことなどがあげられている。この点については、愛知県において、資源ごみの収集量が、平成 18 年度の 324,490 t から平成 26 年度の 256,548 t へ、また、集団回収量が平成 18 年度の 255,157 t から平成 26 年度の 179,956 t へと減少していることと一致しており、県全体の傾向として捉えることができる。

なお、総資源化量の排出量に対する割合では、目標の 34.9% を達成しており、中間処理による再生利用に関する施策の効果があつたものと認められる。

熱回収量及び減量化量については、目標を達成することができなかった。これは、排出量自体の減少により、熱回収や減量化を行うための処理量自体が減少したことに伴うものであるが、新しく整備したごみ処理施設の運用が、当初計画どおりに進まなかったことも要因と考えられる。

今後は、改善計画書に掲げられた方策など、非達成項目に関する施策を中心に充実し、さらなる循環型社会の形成推進に努められたい。

県においても、必要に応じて助言するなどの支援を行っていく。